



「つもり(だ)」をめぐって : 意志表現の指導の観点から

高梨, 信乃

(Citation)

神戸大学留学生センター紀要, 22:1-20

(Issue Date)

2016-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81009476>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81009476>



「つもり(だ)」をめぐって —意志表現の指導の観点から—

高梨 信乃

キーワード: 「つもり(だ)」、意志表現、使用実態、教科書

1. はじめに

「つもりだ」による意志の表現は、初級段階で導入される。そして、多くの教科書では同時に「意向形+と思っている」を提出している。(1)と(2)は非常に近い意味に感じられるが、初級段階で同時に教える必要があるのだろうか。

- (1) 車を買うつもりです。
- (2) 車を買おうと思っています。

また、「つもりだ」には次のような学習者の不適切な使用が見られる。

- (3) そつぎょうの後で、日本語を話すの直ることをつづけたいです。できたら、私は日本に行ってもっと上手になるつもりです。日本語はとても面白くて、きれいな言語です。(対訳作文DB・アメリカ)
- (4) 伝統的な式が見たかったら、ある地方だけ見られます。例えば、スコータイ、チェンマイ、ラッチャブリーなどです。私も全部のタイの結婚式を見たことはありません。是非一度見るつもりです。(対訳作文DB・タイ)
- (5) S: あお、んん、先生のアパートに、〈はい〉先生のアパートへ、行きます、〈あつ〉行く、つもりです、〈はい〉いいですか。

(KYコーパス・中級/英語話者)

- (6) あのー先生はあの、いつごろー、結婚するつもりですか。

(KYコーパス・超級/韓国語話者)

(3) ~ (5) は話し手自身の意志を表明する文、(6) は聞き手の意志を問いかける文である。いずれの「つもりだ」も統語的には問題なく使用されているが、奇妙な感じが伴う。特に、(5) (6) は聞き手に対して失礼な発話になってしまっている。このような例は、「つもりだ」の使い方についての説明・指導が十分に行われていない可能性を示唆するものではないだろうか。

以上のことから、「つもりだ」を日本語教育においてどう扱うかについて検討が必要だと思われる。また、扱い方を検討するにあたっては、(3) ~ (6) が不適切

になる理由も含め、「つもりだ」の意味・用法や特性について再検討する必要があるだろう。

2. 先行研究と本稿の目的

最初に「つもりだ」の先行研究を概観しておく。

まず、意志表現としての「つもりだ」の特徴を指摘した研究に、森山(1990)、仁田(1991)などがある。森山(1990)は、「つもりだ」は話し手の事前に決定された意向を表すとし、(7)のように、その場で決定した意向を表す場合には使用できないことを指摘した。

(7) (相手の発言を受けて) #では、私は、明日3時に研究室に伺うつもりです。仁田(1991)は、「つもりだ」が一人称の意志だけでなく、三人称の意志を表すことができることを示した(例(8))。さらに、話し手の意志を表す場合、必ず聞き手を必要とする(そのため、独話や(9)のような「～と思う」の内部では用いられない)ことを指摘した。

(8) 何という男だろう。本当に売るつもりだ。

(9) *僕は頑張るつもりだと思った。

次に、意志表現としての「つもりだ」の通時的研究に、土岐(2012)がある。土岐(2012)によれば、動詞「つもの」の連用形「つもり」が、「計算」という意味から「将来の計画を算段する」といった意志の意味を表す普通名詞として用いられるようになり、19世紀後半から20世紀初頭に「つもりだ」のモダリティ形式としての文法化が完了したという。

最後に、意志以外も含めた「つもりだ」の用法全体を記述しようとしたものがある。意志以外の用法とは、例えば(10)(11)のようなものである。

(10) 気持ちはまだ20代のつもりだ。

(11) あれ、眼鏡がない。ここに置いたつもりだけど。

グループ・ジャマシイ(1998)と吉川・酒井(2003)は、「つもりだ」の用法を形式と意味の両面から検討し、整理しようとしている点で評価できる。ただし、使用実態に基づいた記述ではないため、実際に使用されている形式や意味が網羅されているか、両者の対応関係が現実合っているかについては疑問が残る。また、近藤(2012)は、「つもり」を「心内画像の標識」として捉えることで、その表す意味を(10)(11)のようなものも含めて統一的に説明しようとしているが、「心内画像」とは何であるかが明瞭ではないことが問題だと思われる。

以上のように、「つもりだ」については、先行研究においていくつかの重要な指摘がなされてはいるものの、意味・用法の全体は十分に明らかにされていない。

そこで、本稿では次のことを行いたい。

第一に、「つもりだ」の意味・用法の全体を、使用実態を踏まえて捉え直す。その際に留意が必要なのは、この形式の文法化の度合いの低さである。すなわち、助動詞と認定できる用法が見られる一方で、「つもりがない」「つもりをする」といった名詞としての用法も少なくないことである。本稿では、全体像を明らかにするために助動詞ではない場合も含めて扱うこととする。なお、そのために以下では「つもり（だ）」と表記することにしたい。

第二に、上記で考察した「つもり（だ）」の意味・用法の全体を踏まえ、日本語教育における扱いを検討する。

3. コーパスから見る「つもり（だ）」の使用実態

ここでは「つもり（だ）」の使用実態を見るために、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（略称BCCWJ、通常版）を用いた調査を行う。

3.1 検索方法と用例の分類方法

検索の方法は以下の通りである。

BCCWJの非コアを含めた全データを検索対象として、検索ツール「中納言」の短単位検索を使用した。キーとして、語彙素「積り」を指定し、共起条件なしで検索したところ、11138件が得られた。この中からランダムピックアップで取り出した1000件を分析の対象とする。

そして、これら「つもり（だ）」の1000件の用例を量的・質的に分析するために、形式と意味の両面から分類する。

形式の面からは、「つもり」の前接形式と後接形式によって分類する。

意味の面からは、ここでは大きく〈意志〉と〈信念〉の2種に分類することにする。〈意志〉とは、主語の未実現の行為についての意志を表すものである（(12) (13)）。

(12) おいしい地酒をおみやげに買って帰るつもりです。

（大橋春男『女性から送る手紙の書き方』）

(13) 今日子は来るつもりなのだろうか。 （白川道『海は潤っていた』）

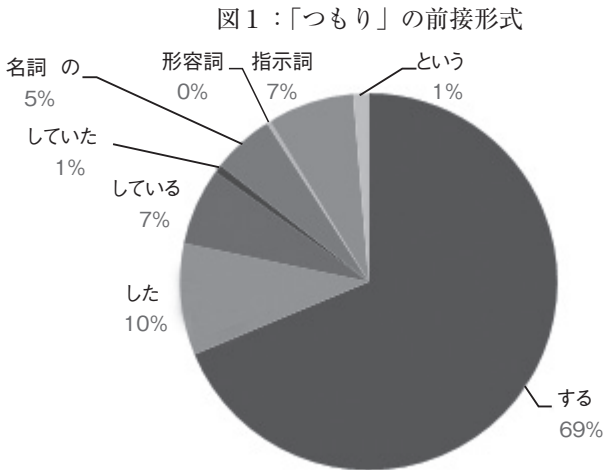
一方、〈信念〉とは、主語が自身の実現済みの行為や状態、自身に関わる状況などについて信じていることを表わすものである（(14) (15)）¹⁾。

- (14) 初心者なりにやれることはやったつもりです。 (Yahoo!知恵袋)
 (15) 一言、二言挨拶すれば、本人は標準語のつもりでも、もうバリバリの関西弁らしくて、…。 (谷崎光『今ごろ結婚しているハズが…! ?』)

3.2 用例の内訳の概観

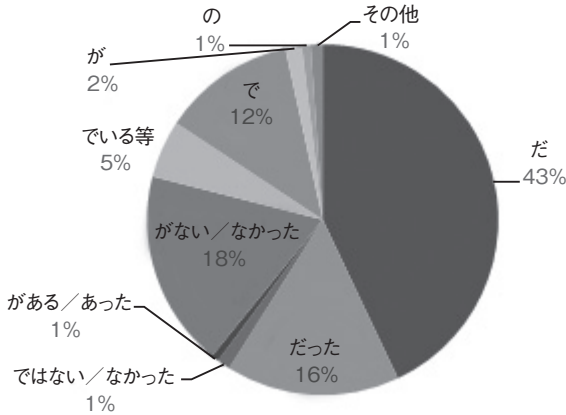
まず、形式の面からの用例の内訳をみる。

「つもり」の前接形式から分類したのが図1である。動詞のル形に接続した「するつもり」が最も多く、全体の70%近くを占めている。一方、動詞以外に接続した「名詞+のつもり」「指示詞+つもり」などが一定数現れていることにも注目すべきであろう。



続いて、「つもり」の後接形式から分類すると、図2のような結果になった。「つもりだ」「つもりだった」で60%近くを占めるが、「つもりで」「つもりが」などの副詞節的な使い方も少なくない。また、否定形では、「つもりがない／なかった」が「つもりではない／なかった」より圧倒的に多いことがわかる。

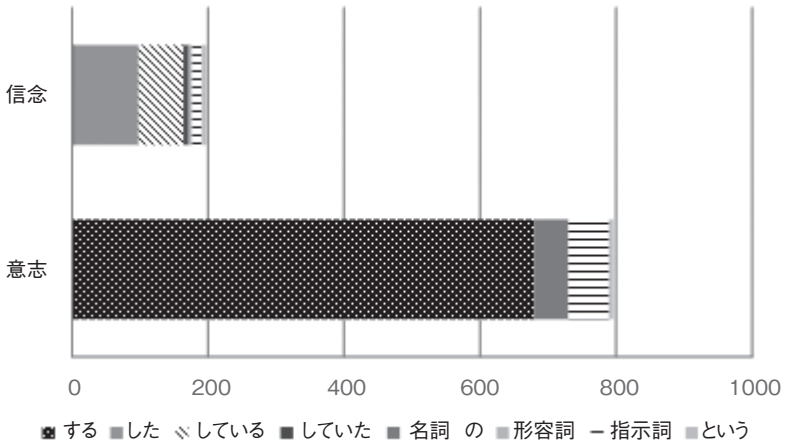
図2：「つもり」の後接形式



でいる等：つもりでいる、つもりでいた その他：つもりにする、つもりになる、つもりをする

次に、意味の面からの内訳を見る。図3からわかるように、〈意志〉と〈信念〉では〈意志〉のほうが多く、前者が全体の約80%、後者が約20%の割合である。

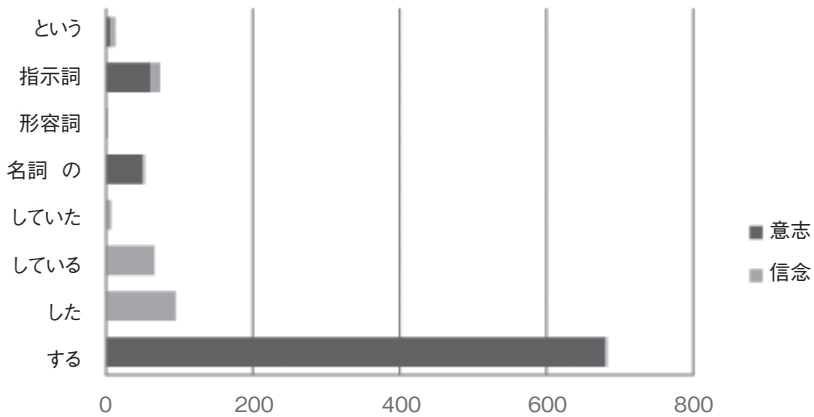
図3：「つもり」の意味



3.3 形式と意味の対応

続いて、形式と意味の対応関係を見よう。上の図3では、〈意志〉と〈信念〉の「つもり」のそれぞれにおける前接形式の分布を見ることができるが、逆に、前接形式のそれぞれについて〈意志〉と〈信念〉の用例が現れた数を示したものが図4である。

図4：「つもり」の前接形式と意味



「するつもり」は、ほとんどが〈意志〉の用例である。が、わずかながら(16)(17)のような〈信念〉と解釈すべき用例も見られる²⁾。

(16) 清水の舞台から飛び降りるつもりで赤い電車に乗った。〈信念〉

(彩ノ木フジ子『赤い電車は未知への一步でした』)

(17) 今の人生で次の千年紀を生きるつもりになるのです。〈信念〉

(ジェームズ・レッドフィールド/山川 亜希子・山川 紘矢(訳)『聖なる予言』)

一方、「したつもり」「しているつもり」「していたつもり」は例外なく〈信念〉の用例である。

(18) 私は言いたいことも言うべきことも話したつもりだ。君が、判ってくれたと信じるよ。
(黒武洋『パンドラの火花』)

(19) ストローをくわえているつもりで、息を吐いてください。

(寺門琢己『骨盤教室』)

「名詞+のつもり」「指示詞+つもり」では、〈意志〉が多いが、〈信念〉も見られる³⁾。

(20) 「メディナのガイドを百二十DHでどうですか。安いですよ」(中略)

「今日は疲れているから、明日のつもりだ」〈意志〉

(山崎久代『シュ克蘭!』)

(21) つべこべぬかしやがって、何様のつもりなんだ。〈信念〉

(池田大作『新・人間革命』)

(22) 大学進学も可能だったが、直澄にはそのつもりはなかった。〈意志〉

(宮部みゆき『理由』)

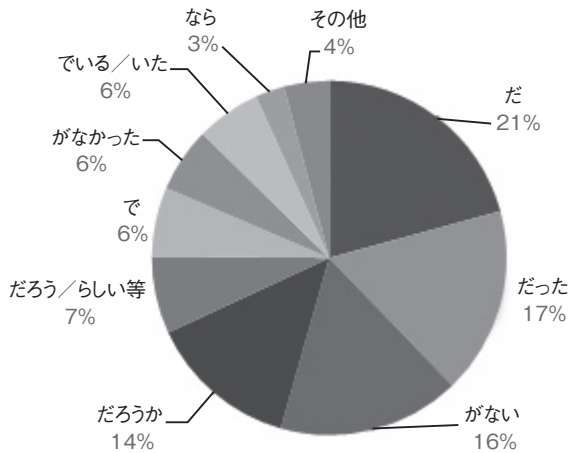
(23) この一兩年新聞は活字を大きくした、大きくしたと自慢するからそのつもりで見たがちっとも大きくなってない。〈信念〉

(山本夏彦『世間知らずの高枕』)

3. 4 「するつもり」〈意志〉の内訳

以上見たように、「つもり（だ）」の用例は多様である。さらに、この中で最も多い、前接形式が動詞のル形である「するつもり」で〈意志〉を表す場合に限っても、その後続形式には、図5のようにさまざまな形が現れている

図5：「するつもり」で〈意志〉を表す場合（680件）の後接形式別の内訳



その他：つもりをする、つもりにする

「するつもり」で〈意志〉を表す用例680件のうち、「するつもりだ」は141件（21%）である。そして、これは分析対象とした「つもり（だ）」の全用例1000件の中で見ると14%にすぎないことになる。

3.5 3節のまとめ

以上、この節では、「つもり（だ）」の用例は、形式・用法ともに非常に多様であることを見た。そして、初級で導入される「するつもりだ」による〈意志〉の表明は、「つもり（だ）」のごく一部の用法にすぎないことが明らかになった⁴⁾。

4. 「つもり（だ）」の特性とは

3節では、BCCWJにおける「つもり（だ）」を、用例数という点から分析したが、この節では、個々の用例を詳しく見ていくことにより、「つもり（だ）」の特性について考える。

先取りして述べると、本稿では、「つもり（だ）」の特性を次のように捉える。

- (24) 「Xつもり（だ）」は、Xが主語の〈意志〉や〈信念〉であることをことさらに表示する。（〈意志〉〈信念〉のマーク機能）

「つもり（だ）」が上記のような特性をもつのは、「つもり（だ）」もともと「算段」「計画」「意図」といった実質的な意味をもつ名詞から成立した形式だからであろう。以下、用例に則して詳しく見ていく。

4.1 〈意志〉の「つもり（だ）」

4.1.1 〈意志〉の表明を表す場合

(25) のような話し手の〈意志〉の単純な表明の場合は、「つもり（だ）」の特性は一見、あまり目立たない。しかし、(25') に比べると、(24) は行為が実現することについての話し手の確信が弱く感じられるだろう。

- (25) 新生活にあたって洗濯機を購入するつもりです。洗濯機を設置してもらうのに料金がかかるみたいなんですけど、洗濯機の設置は自分でできるものなんでしょうか？
(Yahoo!知恵袋)

- (25') 新生活にあたって洗濯機を購入します。

これは、「つもり（だ）」が、行為の実行が「主語の〈意志〉である」こと、逆に言えば、「主語の〈意志〉にすぎない」ことを示すため、実現できるかどうかは不明であるという含みが生じるからであろう。(26) のような例では、実現できるかど

うかは不明という含みがより鮮明である。

(26) お節も・・・どうするべか。。一応作るつもりではいるけど。。

(Yahoo!ブログ)

4.1.2 過去の〈意志〉を表す場合

「つもりだった」などの形で過去の〈意志〉が示される場合には、いわゆる反事実(行為が実現しなかった)の場合が多い⁵⁾。

(27) 一緒に食べるつもりだったのに、忘れてた…な…(^_^; くっちまお～☆

(Yahoo!ブログ)

(28) 彼は外科医になるつもりだったが、皮膚が弱く、当時消毒用としてふつうに用いられていた石炭酸に負けてしまうため、やむをえず(消毒薬を使わない)整形外科医となった。

(アンタール・フェステティクス『ローレンツフォトグラフ』)

反事実が多い理由は語用論的に説明できる。すなわち、過去に存在した〈意志〉について述べるのは、その行為が実現しなかった場合に有意味になることが多いからだと考えられる。しかし、(29)のように反事実でない場合もある。

(29)「首を切断したら、血が噴きだします。死体のそばに一メートル四方に切った毛布がありました。それを首にかけて、それから毛布の下に手を差しこんで、体重をかけて切断したようですね」

「最初から首を斬るつもりだったんですね。鉈や毛布を用意していたんだから。首を斬られたのが死因ですか」 (風見潤『五十の殺意幽霊事件』)

反事実の場合と反事実でない場合に共通するのは、現実の状況と過去の〈意志〉を照合するという点である。そして、現実の状況と過去の〈意志〉の不一致(反事実)を述べる場合が多いが、両者の一致を述べる場合もあるということである。いずれの場合も、「つもり(だ)」の〈意志〉のマーク機能が生かされていると言えるだろう⁶⁾。

4.1.3 〈意志〉の問いかけや〈意志〉の推察・疑いを表す場合

聞き手の〈意志〉を問いかける場合にも、〈意志〉のマーク機能は影響を及ぼす。意志の問いかけでは、(30)のような通常の質問は少数であり、(31)(32)のように不満や不審、非難などのニュアンスを伴う場合がほとんどである。

(30)「煙草をすえ」「は…」「お前は幹部候補生の試験をうけるつもりか」

「まだ、何しろ入隊したばかりで、何も考えては居りません」

(石川達三『風にそよぐ葦』)

- (31) 「えー？ アンタのオタクと、私の悩みを一緒にするワケえ？ それはちょっと、ノーサンキューだなあ」

「…キミは、せっかくの僕のフォローを全部、台無しにするつもりか…」
ブツブツと口の中で文句を言う幸四郎。

(島津出水『コスプレ探偵かおり』)

- (32) それでいざ教習を受けていると、指導員が俺のグローブを見て「走り屋にでもなるつもりか？」と怪訝な顔をして聞いてきました。

(Yahoo!知恵袋)

通常の質問が少ないのは、聞き手に単純にある行為をする意志の有無を尋ねなければ、意志表現を使わなくとも、「その行為をするかしないか」を問えば十分であるからだと思われる。あえて聞き手の〈意志〉を問題にするのは、聞き手の行動に疑義や不満があるなど、特別な場合であろう。

一般に、聞き手の欲求、感情、意志など私的領域に踏み込む発話は、丁寧さの点で不適切になりやすいとされる(鈴木(1997))。したがって、〈意志〉の問いかけ自体が失礼になりやすいのだが、「つもり(だ)」を使用すると、ことさらに表示された聞き手の〈意志〉に直接言及することになり、より不躰な印象が強まるように感じられる。結果的に、「つもり(だ)」による〈意志〉の問いかけは、相手への不満、不審、非難などを表明するという意図に合致したものになるのだろう。

第三者の〈意志〉についての推察や疑いを示す場合も、不満、不審、非難などの否定的なニュアンスが感じられるものが多いが、これも〈意志〉の問いかけと同様に考えられるだろう。

- (33) この人は卒業名簿を見て何をつもりだったのでしょうかね～？

(Yahoo!知恵袋)

- (34) とはいえ、自民党内の郵政民営化反対派が矛を納める気配はない。しかも衆院で四十六人、参院で十八人の自民党議員が造反すれば、民営化法案は成立しないのである。廃案になったら、どうするつもりなのだろうか。

(実著者不明『週刊新潮』)

4.2 〈信念〉の「つもり(だ)」

「つもり(だ)」が〈信念〉を表す場合にも、〈意志〉の場合と平行的な効果がみ

られる。

(35) (36) では、話し手自身の実現済みの行為について述べているが、〈信念〉のマーク機能からそれが話し手の〈信念〉にすぎないという含みが生じ、「洞察しています」「とりあげました」のように言い切るのに比べ、控えめな表現になっている。

(35) 私は写真教室でどこを見ているかと言えば極論で言えば生徒の作品よりその生徒の人間性を観察ではなく洞察しているつもりです。だから、生徒の話しをよく聞くことによって何を見て何を考えているのか？手に取るように解ります。
(Yahoo!ブログ)

(36) さて、この本はむずかしい時間の問題を、抽象的な時間論というかたちではなく、機械時計のつくる時間を、西洋や日本の時計にまつわるエピソードや、具体的な暮らしのなかの時間として、なるべくわかりやすいかたちでとりあげたつもりです。
(角山榮『シンデレラの時計』)

(37) ~ (40) では、話し手の〈信念〉と現実もしくは他者の信念とが一致しないことが示されている。

(37) 毎日しっかりつくっているつもりなのに、気がつくと同じようなメニューばかり。
(実著者不明/山口規容子『ママとパパの育児百科』)

(38) 日常会話なら英語でも困らないというつもりでしたが、会社では、日本語でも知らない専門用語が英語でポンポン飛び交う。最初の2~3ヵ月は大変でした。
(矢嶋恵理/高山周子『外資系企業就職ガイドブック』)

(39) 従姉妹は私に、身内の葬儀なのにメイクをきっちりしているのは常識はずれだと言うのです。別に派手なメイクをしていたつもりはありません。普通にファンデーション、マスカラ、ブラウン系のアイシャドウ（もちろん薄めです）、薄いピンク系（唇の発色がよく見えるやつ）の口紅、以上です。アイシャドウはラメとか入ってません。派手ですか？普通ですよ？

(Yahoo!知恵袋)

(40) なにげなく読んでいる新聞や記事の中には、改めて聞かれると返答に窮する、いわゆる「知ってるつもり」な事柄がたくさんあります。

(実著者不明『超入門ネットワーク』)

「つもり（だ）」で聞き手の〈信念〉を問いかけると、〈意志〉の場合と同様に、ことさらに聞き手の〈信念〉がマークされることから、より不躰な印象になる。(41) (42) では、敢えて「つもり（だ）」を用いて問いかけることにより聞き手に対する

批判的な態度を前面に出していると考えられる。

(41) 「だって、見え見えじゃないですか。それで逆手に取ったつもりですか」
波賀は小ばかにしたように言った。 (倉阪鬼一郎『白い館の惨劇』)

(42) 「だがな、きみがここまで無責任で、危険な行動に出るとは思ってもいなかった…きわめてばかげた行動だ」ウィンターズはつぶけた。「たったひとりで、援護もなしに、通信手段も持たず、秘密捜査を行うとは—いったいなに様のつもりだ？ アニメのヒーローにでもなったつもりか？」

(スティーヴ・ピチェニック/トム・克蘭シー『ネットフォースエクスペローラーズ』)

4.3 4節のまとめ

以上、4節では「つもり(だ)」の特性を考察した。「Xつもり(だ)」は、Xが主語の〈意志〉や〈信念〉であることをことさらに表示する(〈意志〉〈信念〉のマーク機能)。

1節で見た学習者による「つもり(だ)」の使用例(3)～(6)が不適切な理由も、〈意志〉〈信念〉のマーク機能と関連する(5節で述べる)。

5. 日本語教育における「つもり(だ)」の扱い

この節では、前節までで考察した「つもり(だ)」の使用実態と特性を踏まえ、日本語教育における「つもり(だ)」の扱いを検討する。具体的には、「つもり(だ)」が日本語教育においてどのように扱われているかを見る手がかりとして、初級から中上級まで一貫したシラバスで作成されたものと考えられる、以下の3種類の総合教科書を見る。

(43) 検討する教科書

- ・『みんなの日本語初級Ⅰ』『同初級Ⅱ』『同中級Ⅰ』『同中級Ⅱ』(以下『みんな』)
- ・『新文化初級日本語Ⅰ』『同Ⅱ』『文化中級日本語Ⅰ』『同Ⅱ』(以下『文化』)
- ・『東京外国語大学 初級日本語 上』『同 初級下』『同 中級日本語』(以下『東外大』)

これら3種類の教科書において「つもり(だ)」の各用法が提出された課を整理したのが表1である。

表1：「つもり（だ）」の提出課

| 意味・用法 | 例文 | みんな | 文化 | 東外大 |
|------------|-----------------------------------|-------|--------|--------|
| 〈意志〉表明 | 来月車を買うつもりです。 (来月車を買おうと思っています。) | 初Ⅱ 1課 | 初Ⅱ 20課 | 初下 20課 |
| 〈意志〉表明(否定) | 同じ会社で一生働くつもりはありません。 | 中Ⅰ 6課 | 中Ⅰ 4課 | - |
| 〈意志〉過去 | コンサートに行くつもりだったけど、ちょっと用事ができて。 | 中Ⅰ 6課 | - | - |
| 〈信念〉 | 自分では努力しているつもりなんです。 | 中Ⅰ 6課 | - | - |
| 〈信念〉 | 欲しい物を買ったつもりで貯金します。 | 中Ⅰ 6課 | - | - |

先に結論を述べると、これらの教科書における「つもり（だ）」の扱いには、以下の4つの問題点があると思われる。

(44) 日本語教育における「つもり（だ）」の扱いの問題点

- 1) 「つもり（だ）」の最初の提出時期が適当ではない。
- 2) 「つもり（だ）」の多様な形式・用法のごく一部しか指導されていない。
- 3) 「つもり（だ）」の特性からくる注意点が十分指導されていない。
- 4) 「つもり（だ）」の特性からくるコミュニケーション上の効果が十分指導されていない。

問題点1) 「つもり（だ）」の最初の提出時期が適当ではない

3種類の教科書に共通しているのが、「するつもりだ」の形での〈意志〉の表明が初級後半で提出されている点と、同じ課において「意向形+と思っている」（車を買おうと思っています）が提出されている点である。

初級のこの段階で2つの形式を同時に教えることのメリットは何だろうか。〈意志〉の表明としての「するつもりだ」と「しようと思っている」は意味が非常に接近している⁷⁾。したがって、2つを教えても学習者が表現できる内容の幅は広がらない。むしろ、同時に2つを教えることで学習者の負担を増やし注意を分散させる危険があるという点で、デメリットの方が大きいだろう。

問題点2) 「つもり（だ）」の多様な形式・用法のごく一部しか指導されていない

3種類の教科書が共通して提出しているのは、「するつもりだ」による〈意志〉の表明のみである⁸⁾。これは、3節で見たように「つもり（だ）」の用法のごく一

部に過ぎず、しかも、「しようと思っている」という別の形式で表現可能な部分である。むしろ、「するつもりだ」以外の用法に目を向けるべきではないか。

問題点3)「つもり(だ)」の特性からくる注意点が十分指導されていない

4節で見たように、〈意志〉〈信念〉のマーク機能をもつ「つもり(だ)」は、用い方によっては不適切な表現になりやすい。1節に挙げた学習者の「つもり(だ)」の使用例(3)～(6)がそれに該当する。

(5) (先生に対して) 先生のアパートへ行くつもりです。

(6) 先生はいつごろ結婚するつもりですか。

(3)～(5)は話し手自身の意志のみで実現不可能だと思われる行為を意志の対象として述べている点、(6)は聞き手の意志(それも結婚という私的な事柄についての意志)を直接問うている点に問題がある。したがって、「しようと思っている」などを用いても不適切ではあるのだが、特に〈意志〉をマークする「つもり(だ)」を用いたことにより、不適切さや不躱な印象が一層強まっているものと考えられる。

つまり、「つもり(だ)」を使用すると、〈意志〉がことさらに表示されるため、ほかの意志表現の場合以上に不適切になる場合があることを、少なくとも指導者は認識しておく必要があるだろう。

問題点4)「つもり(だ)」の特性からくるコミュニケーション上の効果が十分指導されていない

上記の注意点とは逆に、「つもり(だ)」の特性を活かして良い効果を上げることが可能な場合もあるはずだが、そのような点についても、指導において特に注意が払われることがないのが現状だと思われる。

たとえば、過去の〈意志〉を表す「つもりだった」は、次の(45)のような状況で用いれば、実行はしなかったが、少なくとも実行する〈意志〉はあったということを相手に伝えることにより、人間関係を悪化させないことに役立てられる可能性がある。

(45) どうして遅くなったの? 今日は早く帰ってくると言っていたのに。

…そのつもりだったんだけど、帰ろうとしたときに、お客さんが来て
……。

(『みんな』中級 I 6課 例文)

こうした観点から言えば、〈信念〉の「つもり(だ)」も、扱い方に工夫が必要だと思われる。そもそも〈信念〉の「つもり(だ)」は学習項目として取り上げられ

ること自体が少なく、今回調査した3種の教科書の中で、提出しているのは『みんな』のみである。

『みんな』では(46)のように説明されている。

(46)「Xたつもり／Xているつもり」は動作主がXであると思っていることを表します。本当はXでない場合もあれば、Xかどうかわからない場合があります。

- ①外国語を練習するときは、小さな子どもになったつもりで、大きな声を出してみるといい。
- ②かぎがかかっていませんでしたよ。
…すみません、かけたつもりでした。
- ③わたしは一生懸命やっているつもりです。
- ④若いつもりで無理をしたら、けがをしてしまった。
- ⑤本当の研究発表のつもりで、みんなの前で話してください。

(『みんな』中級Ⅰ 6課 教え方の手引き)

このような「つもり（だ）」の用法は、学習者にとって理解しにくいようである。また、意味は理解できてはなかなか使えるようにならない。

学習者が〈信念〉の「つもり（だ）」を使えるようにならない原因の一つは、学習の動機づけの欠如ではないかと考える。つまり、この用法をコミュニケーションのどんな局面で使用するといいいのか、言わば「使えるポイント」といったものが、学習者にわかりにくいのではないだろうか。

そうした問題意識をもって教科書を眺めてみると、同じ『みんな』の別の課の会話の中に次のような〈信念〉の「つもり（だ）」が出ているのに気が付く。

(47) [サークルの新入部員歓迎会で]

下積みの人間の心の痛みを知っているつもりです。

(『みんな』中級Ⅱ 19課 会話)

(48) [就職の面接で]

忍耐力はだれにも負けないつもりです。(『みんな』中級Ⅱ 24課 会話)

(47)(48)の話し手はいずれも自己についての肯定的評価を述べているが、「つもり（だ）」を使用して「あくまで自分の〈信念〉としては」という示し方をすることにより、謙虚な態度の表現となっている。これは、まさに〈信念〉の「つもり（だ）」の「使えるポイント」の一つと言えるのではないだろうか。

このようなコミュニケーション上の効果をもっと意識して学習者に伝えていくことが重要ではないか。「つもり(だ)」の問題に限らず、指導者の側が留意すべきことだと思われる。

7. おわりに

以上、本稿では意志表現「つもり(だ)」の使用実態と特性について考察し、それを踏まえて日本語教育における扱いを検討した。

本稿ではBCCWJをデータとして分析を行ったが、考察を深めるためには、話し言葉のデータを加えて、「つもり(だ)」の使用実態をより多角的に調べなければならない。また、今回取り上げなかったものも含め、教科書調査をより詳細に行う必要がある。さらに、意志表現全体に射程を広げ、動詞の意向形(しよう)、非過去形(する)などの他の意志表現、さらに希望表現(したい)など、隣接する表現についても、提出や指導の方法を再検討することが望まれる。今後の課題としたい。

注

- 1) 本稿でいう〈信念〉には、グループ・ジャマシイ(1998)の〈反事実〉、吉川・酒井(2003)の「思い込み」「過信」「妄想」「錯誤」が含まれる。
- 2) (16)(17)は、当該行為を実際に実行する意志を表しているとは言い難いことから〈信念〉に分類したが、かなり特殊な例だと考えられる。また、今回の調査で扱った1000件の中には見られなかったが、次の例のように前接する動詞が無意志動詞である場合も、〈意志〉ではなく〈信念〉の意味になる。
・自分もかつて経験したことだから、現場の苦労はわかるつもりだ。
- 3) グループ・ジャマシイ(1998)では「名詞のつもり」について〈反事実〉(本稿では〈信念〉)の例文のみが挙げられている。確かに、内省では(21)のような例を思い浮かべやすいのであるが、実例を見ると(20)の「明日のつもりだ(=明日頼むつもりだ)」のように〈意志〉を表している例の方が多いということである。
- 4) 本発表で扱ったのは書き言葉のデータであるが、小林(2005)は、自然会話64時間分を観察した結果、「つもり」を含む発話は40例で、「(よ)うと思う」の約4分の1であったこと、さらに、その中に「つもりです(だ)」という形式が1例もなかったことを報告している。
- 5) ここでの「反事実」は本稿での〈意志〉に含まれるものであり、グループ・ジャ

マシイの〈反事実〉とは異なる。

- 6) 「つもりはなかった」などの否定の場合も、肯定と同様に考えられる。すなわち、(7) のように反事実（行為が実現した）場合が多いが、(イ) のように反事実でない（実現しなかった）場合もある。

(ア) 「あの一、わざわざ電話するつもりはなかったのですが、ウチの子があざだらけになって帰ってきましてネ」「はあ…」 私が宏之のクラスの子のお母さんから電話をいただいたのは、夜も、まだ早い時間でした。

(ケイ・アンナ『言葉のキャッチボールで子どもは育つ』)

(イ) 彼女もわたしも長期の派遣社員だった。というのも、会社側はわたしたちの代わりを探さなかったし、わたしたちも正社員になってまで苦勞が多いだけのつまらない仕事をするつもりはなかったからだ。

(エリカ・クラウス『いつかわたしに会いにきて』)

- 7) 『みんな』では、文法解説に次のような注釈がある。

[Note] Compared with V volitional form と おもって います, V dictionary form つもりです sounds more determined.

(『みんなの日本語初級Ⅱ』31課 文法解説)

- 8) 否定の意志の表明である「つもりはない」は、『みんな』と『文化』が提出している。動詞を否定形にした「ないつもりだ」も存在するが、「つもりはない」のほうが使用頻度が高かるかに高いことを見ても、提出が必要だと思われる。今回のデータ1000例の中では、「つもりはない」153例に対して「ないつもりだ」は15例であった。

付記:本研究は、科学研究費(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)「バラエティを考慮した使用実態調査に基づく日本語のモダリティ記述発展のための研究」(2013-2015年度、課題番号25370534、研究代表者:野田春美)の成果の一部である。

引用文献

- グループ・ジャマシイ(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版
 小林ミナ(2005)「コミュニケーションに役立つ日本語教育文法」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版
 近藤安月子(2012)「第33課「つもりだ」」近藤安月子・姫野伴子編著『日本語文法の

論点43』研究社

- 鈴木睦(1997)「日本語教育における丁寧体世界と普通体世界」『視点と言語行動』くろしお出版
- 土岐留美江(2012)「意志表現とモダリティ」澤田治美編『ひつじ意味論講座第4巻モダリティⅡ事例研究』ひつじ書房
- 仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 森山卓郎(1990)「意志のモダリティについて」『阪大日本語研究』2, pp.1-19, 大阪大学文学部日本学科(言語系)
- 吉川武時・酒井順子(2003)「つもり」吉川武時編『形式名詞がこれでわかる』ひつじ書房

コーパス

- 国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」(短単位データ Ver.1.0) http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/
- 国立国語研究所「日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース」(略称:対訳作文DB) http://jpforlife.jp/contents_db
- 「タグ付きKYコーパス」<http://jhlee.sakura.ne.jp/kyc/>

参考資料

- 『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説英語版』スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語中級Ⅰ本冊』スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語中級Ⅰ教え方の手引き』スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語中級Ⅱ本冊』スリーエーネットワーク
- 『新文化初級日本語Ⅰ』凡人社
- 『新文化初級日本語Ⅱ』凡人社
- 『文化中級日本語Ⅰ』凡人社
- 『文化中級日本語Ⅱ』凡人社
- 『初級日本語 上』[新装改訂版]東京外国語大学留学生日本語教育センター編著 凡人社
- 『初級日本語 下』[新装改訂版]東京外国語大学留学生日本語教育センター編著 凡

人社

『中級日本語』東京外国語大学留学生日本語教育センター編著 凡人社

On *tsumori-(da)*: From the viewpoint of teaching volitional expressions

TAKANASHI Shino

This paper investigates the actual use and features of *tsumori-(da)* and discusses how to teach this expression.

The results of the investigation using BCCWJ (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese) show that *tsumori-(da)* is used in various ways and that this form has the feature that it marks volition or belief of the subject prominently.

Considering these points, I highlight the following problems in the ‘traditional’ way of teaching the usages of *tsumori-(da)* : 1) the first introduction of *tsumori-(da)* is not suitable in terms of time of introduction 2) only a part of the various usages of *tsumori-(da)* is taught, 3) the features of *tsumori-(da)* that students need to be aware of are not given enough emphasis, 4) the point about how *tsumori-(da)* can be used effectively in communication is not emphasized in teaching enough.